

# 調査季報

## 188号 特集：市民の意識と行動選択の変化

を発行します。

私たちの意識や価値観はそれぞれの生活の積み重ねの中で変化していく場合も多くありますが、現在も続くコロナ禍は、突発的で私たちに経験のないものであり、様々な行動や考え方など生活の全般を変容させるに十分なインパクトを与えています。

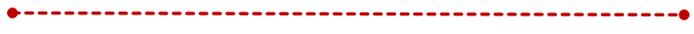
今号では、私たちの生活環境や意識の変化を概観しながら、近年、特にコロナ禍における「なるべく移動しない」「なるべく人と接触しない」で生活するという経験を通して生じた生活行動の変化のうち、特に「すること」と「場所」のつながりが強かった「住まい」—生活の拠点であり移動の起点となる居住地の選択の側面、「経済・観光」—その場所を選んで行って行動する消費や余暇、観光などに対する意識と行動選択の側面、そして、自らが暮らす地域の課題解決や行政サービスという3つの側面から、現在捉えられる状況の変化と、これからの在り方などについて考察します。



- 1 市民意識調査にみる市民の意識と行動の変化
- 2 コロナ禍における横浜市の人口移動
- 3 人口動態における地域特性と居住地選択意識の分析
- 4 勤務地との関係性から見た住宅地需要予測  
～ 郊外部のまちづくり検討に向けて ～
- 5 子育て世帯のライフスタイルに沿うまちづくりをめざして
- 6 新型コロナウイルス感染症やデジタル化の進展による企業活動への影響について
- 7 商店街の現状とニューノーマル社会における商店街活性化
- 8 観光・消費目的の来街者の状況変化
- 9 「Beyondコロナ」を目指す横浜の公民連携
- 10 「あなたがいる場所が手続の場所になる」行政サービスの実現を目指して～横浜DX戦略の推進
- 11 おわりに

<調査研究レポート>

- ① 経験×データで待機児童のその先へ ～保留児童対策タスクフォース～
- ② 日常生活圏域ごとの特性を踏まえた地域包括ケアの推進 ～2040年に向けて
- ③ 一人ひとりのライフスタイルに応じた豊かな暮らし方を選択できるまち よこはま ～横浜らしい多様な“地域特性”と多彩な“市民力”を生かして～



調査季報は、市民生活にとって重要な課題や自治体の政策について、職員が自由に意見を発表し討論する政策研究誌です。昭和38年から50年以上にわたり発行されています。

**1冊 500円 (税込)**  
◎ 3月28日(火) から、市庁舎3階 市政刊行物・グッズ販売コーナーにて販売します。

各記事は市ホームページにも掲載しています。  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/shien/tyousakihou/>

バックナンバーは、市ホームページで全号をご覧いただけるほか、発行から10年以内の号は市政刊行物・グッズ販売コーナーでご購入いただけます。

